

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
中島弘二		koji331@kenroku.kanazawa-u.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
小林 大祐		金沢大学 文学部 人間学科 史学科 / 人間社会学域 人文学類 人間科学コース・フィールド文化学コース	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地域調査実習II	KNZa-090801-0	7人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

授業全体のテーマに即して小テーマを設定し、仮説立案、調査の計画と実施、資料分析・解析、報告書の作成という社会調査の一連の過程を十分に学習できたものと判断する。各小テーマはそれぞれ独立した仮説立案～報告書作成のプロセスを持っており、複数の学生が作業を分担する形の授業に比べ各学生の社会調査に対する主体的な能力が育成されたと考える。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

長野県松本市とその周辺地域における地域調査。自然環境、自然災害、環境保全運動、伝統文化、都市政策などの諸点に焦点を当てながら地域の実態を総合的に解明し、地域社会が抱える社会的課題の掘り起こしと解決策の提示を図る。

2. 調査の内容／概要：

今回は以下の小課題について調査を行った。(1)地形や気候など地域の自然環境の実態解明、(2)自然災害に対する住民意識の調査、(3)環境保全活動と地域社会とのかかわり、(4)地域社会における伝統祭祀の役割とその変化、(5)都市の文化振興政策と市民のかかわり。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

今回の調査のうち量的調査をおこなったのは上記のうち(2)であり、あとは質的調査が主であった。(2)では調査対象地域に居住する住民を母集団とし、標本数は388世帯、無作為抽出を採用した。(3)については環境保全団体のスタッフに聞き取りをおこなうとともに、環境保全活動に対する取り組み方が異なる3地区を取り上げて、それぞれの地区の住民組織のメンバーに聞き取り調査をおこなった。(4)については対象地域における祭祀の運営に携わる住民組織の代表者および祭祀が行なわれる神社の神主への聞き取りをおこなった。(5)については自治体の文化振興政策担当部署の担当者及各文化施設の職員、および施設利用者の市民に対して聞き取りをおこなった。

4. 主な調査項目：

(2)地震および断層についての住民の知識、不安、対策など、(3)環境保全活動の経緯と現在の活動内容、および住民の参加程度、(4)伝統祭祀の運営の実態と地域住民の参加程度、および祭りに対する意識、(5)文化振興政策の具体的内容と施設利用の実態、および施設利用者の活動内容など。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

各小課題とも最初に市役所で地域の事情に詳しい担当者に聞き取り調査を行うとともに住民組織や関係者のリストを入手し、そのデータに基づいて聞き取り対象を設定している。(2)ではその後に調査者が対象地域の標本世帯を訪問して調査票を配布・回収した。それ以外の小課題については調査者が調査対象施設や対象世帯、関係機関を個別に訪問してその場で詳細な聞き取り調査をおこなうとともに、一部については後日にメールや電話による補足的な調査をおこなった。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査の実施時期は2009年9月上旬に本調査をおこなったが、それ以前に事前調査として調査課題選定に必要な聞き取り調査を行っていることに加え、本調査以降にも補足的な聞き取り調査を行っている。対象地域は松本市、諏訪市、辰野町。調査員は参加学生7名と教員1名である。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

(2)に関しては有効回収票数157通、回収率40.5%であった。それ以外の聞き取り調査により収集したデータは地域の実態を把握するうえでおおむね十分な量・質であったと判断される。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

行政や関連団体から入手した統計資料については基本統計量を算出し、それぞれの小課題について地域の概要を把握した。(2)の量的調査については災害条件の異なる2地域を取り上げて、地震についての知識や理解度、地震災害への対策の有無および内容、地震災害の危険に対する認識について地域間の比較をおこなった。その結果、地震や断層の理解度や対策において顕著な地域差は認められず、正しい災害情報が共有されていないことが明らかとなった。そのほかの聞き取り調査の結果については地域差とともに時系列的な変化にも焦点を当てて事象間の相互連関を明らかにした。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

松本市や諏訪市、辰野町における地域の文化・社会・自然の各局面について、その実態を明らかにするとともに、それぞれの地域社会が抱える課題を明確化することができた。ただし課題解決への具体的方策を提示するという目的については、必ずしも十分ではなかった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

金沢大学文学部地理学教室編『2009年度地域調査実習報告書 松本』を2010年3月31日に刊行した。